

日本発ドイツ便り：街で見かける看板たち

「お店の看板」と聞いて、どんなものを思い浮かべますか？
お店の名前が書かれたもの？会社のロゴマーク？電飾で光るもの？

ドイツの街角で見かけるお店の看板も最近変わってきてはいますが、伝統的な看板ってこんな感じです。何処の街でも見られるものではなくてはなりましたが、なかなか手の込んだデザインも素敵なものも多くて、見つけるたびに写真を撮っている私です。まず、色々デザインはあるものの、ドイツ全国统一のものはこれ。



赤いAのマークはApotheke（アポテーケ）。薬局です。ドラッグストアではなくて薬局です。ドイツでは薬は薬局でしか買えません。

もう一つは絶対どこかに写真があるはずなのに、残念ながら見つけれませんでした…。



パン屋さんのマークはBrezelのマークです。☺焼き立ては本当に美味しいです。Brezelかじっていると、しみじみと「ああドイツにいるんだ」って思います。



ブドウのマークやワインの樽はもちろんワイン屋さん



金色のホルンのマークは昔の郵便馬車の停泊所。その当時の街の中心地であることが多くて、今ではレストランやホテルとして使われているところが多いです。(小さな街では今でも「その街一番の」ホテルだったりレストランであることも珍しくありません。)



日本の家って基本的に出かける時には家の扉の鍵を締めますよね？でもドイツの家はどこも基本はホテルと同じく、オートロックなんです。

出かける時は扉をボタンと閉めればOKなので、ちょっとそこまで出る時でも必ず鍵を持って出なければなりません。閉まった扉は鍵がなければ外からは開かない仕組みになっています。もちろん、家族全員、一人に一つ鍵を持っています。そんな扉事情で、うっかり忘れて出てしまっって締め出されることも多かったですよね。

「鍵屋さん」と聞くと、合鍵作ったり、というお店を想像しますが、ドイツではちょっと前までは（今も同じかどうかは分かりませんが）鍵屋さんで、その地域の全ての家のスペアキーを管理していたのだそうですよ。



ビール屋さん（レストラン）はビアマグ（蓋付き）のマーク



ビール屋さん（醸造所兼レストラン）は六角星のマークが使われることも多いです。



これはフランクフルト名物 Apfelwein（アップルワイン）屋さん。



とっても分かりやすい焼きソーセージが名物のレストラン

こういった伝統的な看板は、絵とか象徴的なマークで、誰が見ても何のお店か分かるようになっているのが特徴でしょうか？ちゃんと調べていないので、断言はできませんが、文字が読めない人が多かった時代、マークだけ見れば何のお店か分かる、みたいな理由が最初にあるのかな？と。

でも見方を変えれば、今でも旅行者にも便利な看板ですね。☺

今やどこでもあるものではなくなりつつありますが、もしドイツ滞在の機会があれば、看板にも注目してみてくださいね。